［特集］

理系が活躍できる コンサル業界

理系出身者が多数活躍しているコンサル業界。
企業が直面する経営課題に対して様々な角度からアプローチし、
解決に挑むコンサルティングファームで、なぜ理系人材が活躍できるのか。
この特集では、理系の活躍フィールドとしてのコンサル業界を紹介する。

理系の素養が求められる コンサル業界

コンサルタントの主要なミッションは『クライアントの抱える課題を発見・分析し、最適なソリューションを提示する』こと。これは、「答えのない課題と向き合い、課題の本質を見極め、解を見出す」ことであり、理系の研究で求められる素養と通じる部分が多いのです。事実、コンサル業界では、理系人材が研究で培った論理的思考力やリサーチスキルを高く評価しており、在籍コンサルタントの半数程度が理系出身というファームも珍しくありません。その他にも、メーカーやITといったクライアントのプロジェクトにおける技術・製品の評価などで、専門性をダイレクトに活かせるシーンもあるでしょう。

幅広いコンサルの活躍フィールド

コンサルタントが担当するクライアントは、メーカー、IT、金融、インフラ、官公庁などあらゆる業界にわたります。またコンサルティングのテーマも経営戦略や事業戦略の立案から、情報システム、人事制度、マーケティングと極めて多様です。

コンサルティングファームはその得意領域や出自によって「●●系コンサルティングファーム」と分類されます。どんなコンサルティングファームがあるのか、大枠で理解するために左ページでは代表的な分類を紹介します。

■コンサルティングファームの種類

戦略系

中長期での経営戦略、新規市場参入、M&A、海外進出といった企業経営を進める上で柱となる戦略立案などを手掛けるのが、戦略系コンサルティングファーム。かつてはレポートを作成してクライアント企業に提出・プレゼンを行うところまでがコンサルの役割だったものの、現在は「いかにして戦略を実行するのか」という「実行」部分まで踏み込んだ支援を行うファームが増えている。

総合系

あらゆる業態のクライアントに対して幅広いサービスを提供する、比較的規模の大きなコンサルティングファームを指す。コンサルティングの対象が多岐にわたるため、対象とする業態（メーカー、IT、金融、官公庁など）や業務別（戦略、財務会計、組織人事、ITなど）に専門チームを組織しているファームが多い。様々な領域におけるプロフェッショナルがプロジェクトごとに協業し、最適なソリューションの提案を目指す。

財務・会計系

財務（企業再生支援、価値評価）やM&Aなどに特化した支援を行う財務・会計系コンサルティングファーム。元々は会計事務所・監査法人など、財務や会計・決算などの業務を支援していた企業がコンサルティング分野に進出したケースが多い。財務面から経営計画の策定、株式公開支援、会計関連の新制度導入・フロー改善の支援といった面で企業経営にかかわるプロジェクトが多い。

人事・組織系

人と組織にフォーカスを当て、企業の組織ビジョン、人事戦略、人事制度の改善などを行う人事・組織系コンサルティングファーム。人事制度の設計・導入から企業風土そのものの改革まで、人事・組織に関する様々なレベルでの組織変革を支援する。その他にも、企業年金制度の設計・導入といった領域では、年金アクチュアリーによるサポートを提供しているファームも。

シンクタンク系

シンクタンクとは、幅広い分野を対象とした調査・研究・分析を、官公庁から一般企業まで様々なクライアントに向けて行う機関。日本の民間シンクタンクは、もとは金融機関、メーカーなどが自社（またはクライアント）の課題の調査・分析などを行う総合研究所を独立させた経緯を持つことが多い。政策提言や調査研究のイメージが強いかもしれないが、実際はシステム開発も含め幅広いコンサルティングを行っている。

IT系

会計や業務システムなど、いまや企業経営と切っても切り離せないITシステム。ITを駆使し、企業経営を加速させるのがITコンサルティングファームだ。クライアントにとって最適なシステムを提供するためには、ITの知識だけではなく、ビジネスや業務についての深い理解も求められる。ITソリューションの提案から構築まで一気通貫で担うITコンサルティングファームも珍しくない。また、システムインテグレーターでもITコンサルタントを採用している企業がある。

コンサルティングの対象や得意領域によって様々なコンサルティングファームが存在しているということを理解いただけただろうか。次のページでは、業界のトレンドやコンサルタントが提供する価値について、現役コンサルタントが解説する。